

The Emerging Market Weekly

国際為替部

マーケット・エコノミスト

佐々木 貴彦

03-3242-7065

takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周

03-3242-7065

amane.saito@mizuho-bk.co.jp

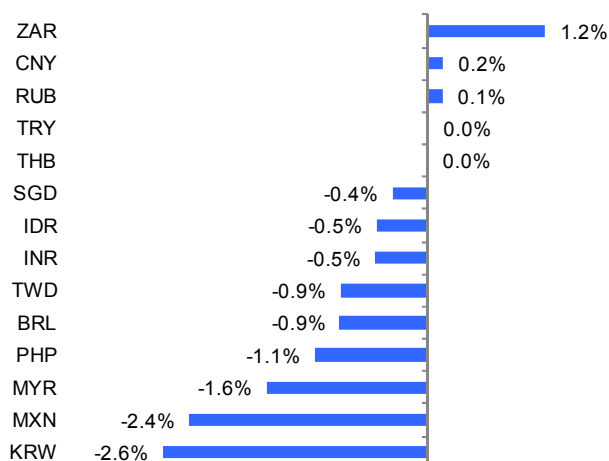
今週のエマージングマーケット

原油価格の下落及び米長期金利の上昇を背景に、新興国通貨は下落

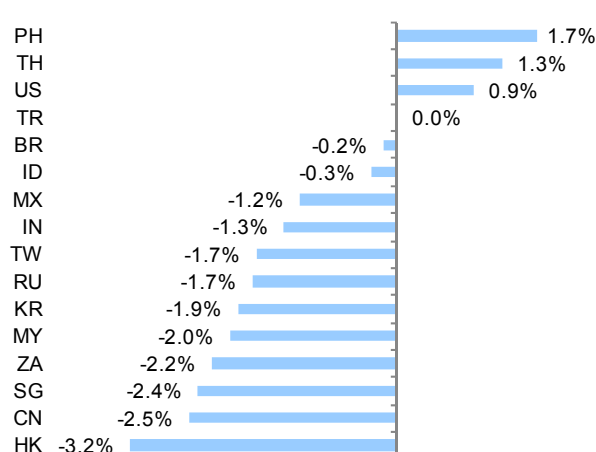
今週の新興国通貨は大半が下落した。先週末のローゼングレン・ボストン連銀総裁によるタカ派発言を受け、米利上げ観測が高まりドルは上昇し、新興国通貨は下押しされた。週初、ブレイナードFRB理事のハト派な発言を受け、米9月利上げ観測が後退するとドルは軟化し、新興国通貨は値を戻す展開となった。13日、国際エネルギー機関(IEA)が9月の石油月報で「原油供給の過剰は予想よりも長期にわたり続く可能性」との見方を示すと原油価格が下落、資源国通貨は売られた。また、来週の会合で日銀が長短金利差を拡げる施策を決定するとの思惑が拡大し、この思惑が同じくマイナス金利政策下にある欧州にも波及して長期金利が上昇した。こうした動きに連れられて米長期金利も上昇し、新興国通貨は下落した。14日、原油安により資源国通貨は下値を切り下げたが、その他の新興国通貨は、来週のFOMC、中華圏の長期休暇を背景に動意に乏しい展開となった。

個別通貨で見ると、原油安を受けて資源国通貨のMXN(▲2.4%)、MYR(▲1.6%)、BRL(▲0.9%)が値を下げた。特にMXNは、メキシコに対して高い輸入関税と移民制限を課すと宣言しているトランプ氏が、大統領選における支持率でヒラリー氏をリードしているとの報道が嫌気された。また、地政学的リスクへの懸念や休場を控えKRW(▲2.6%)は下落した。

エマージング通貨騰落率(対ドル)



エマージング株式騰落率



(注) US: 米国 S&P500 種指数、CN: 中国上海総合指数、HK: 香港ハンセン指数、IN: インド SENSEX30 種指数、ID: インドネシアジャカルタ総合指数、KR: 韓国総合株価指数、MY: マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス、PH: フィリピン総合指数、SG: シンガポール ST 指数、TW: 台湾加権指数、TH: タイ SET 指数、RU: ロシア RTS 指数、ZA: 南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数、TR: トルコイスタンブールナショナル 100 種指数、BR: ブラジルボベスバ指数、MX: メキシコボルサ指数

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

エマージングマーケット短期見通し

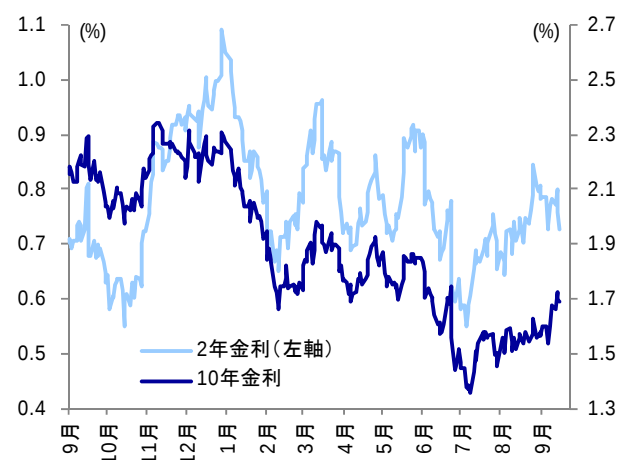
先進国における長期金利の上昇が新興国通貨売りに繋がる

今週の新興国通貨は、米長期金利の上昇を受けて軟調な展開となった。来週の20日（火）～21日（水）に開催される日銀の金融政策決定会合に向けて、マイナス金利の深掘りが意識されている。市場ではそれに伴う金融機関の業績に対する悪影響を緩和するために、日銀が長短金利差を拡大させる施策を打ち出すとの思惑が広がり、日本の長期金利が上昇した。これを受けて、同様の思惑から欧州でも長期金利が上昇すると、米国の長期金利も連れて上昇した。英国のEU離脱（Brexit）問題に対する懸念が後退した7月以降、新興国については債券投資フローの流入が見られていたが、長期ゾーンにおける米国との金利差が縮小したことで、債券投資フローが流出に転じ、新興国通貨売りに繋がった模様だ。

金利上昇は長続きせず、新興国通貨売りは短期的に止まる

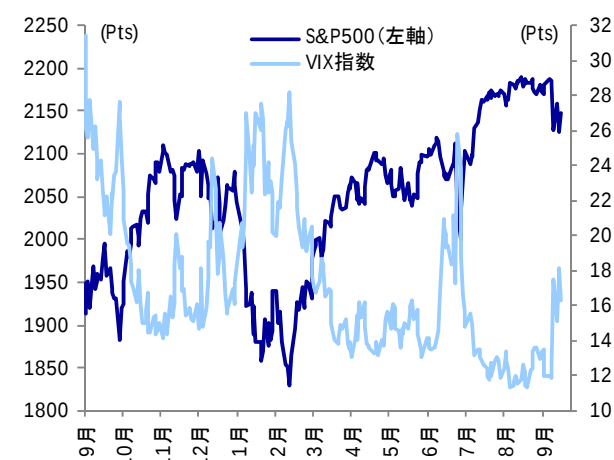
仮に来週の会合で日銀が長期債の買い入れ額を絞り、長短金利差を拡大しようとしても、日銀が長期債を買い続けるという事実には変わりがない。また、歴史的な低金利に伴う運用難という状況も変わらない。よって、長期金利が上昇し、買い妙味が出てくれば、日本国債は買い戻されるだろう。既に日本の債券市場参加者の一部からは、20年債金利は足許0.4%台後半で推移しているが、マイナス金利政策を導入した1月の水準（1.0%）に近づけば、買い妙味は大きいという声も聞かれ始めている。また、同日に結果が発表されるFOMCでは、利上げの見送りとともにメンバーの政策金利見通し（ドットチャート）が引き下げられることが予想されるため、米金利の上昇が押さえられる可能性が高い。こうした金利市場の状況に鑑みれば、新興国通貨売りの流れは短期的に止まると言えよう。但し、日本の債券市場参加者は、日銀の会合結果発表後にすぐクローズを迎え、祝日に入る。そのため、日米の会合結果に反応するのは23日（金）しか実質的に残されておらず、来週も日本国債は売り優勢となるだろう。

図表 1: 米国債利回りの推移(過去1年間)



(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 米株とVIX 指数の推移(過去1年間)



(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

フィリピン:金融政策決定会合プレビュー

堅調な国内経済とインフレ率安定を
背景に金融政策の現状維持を予想

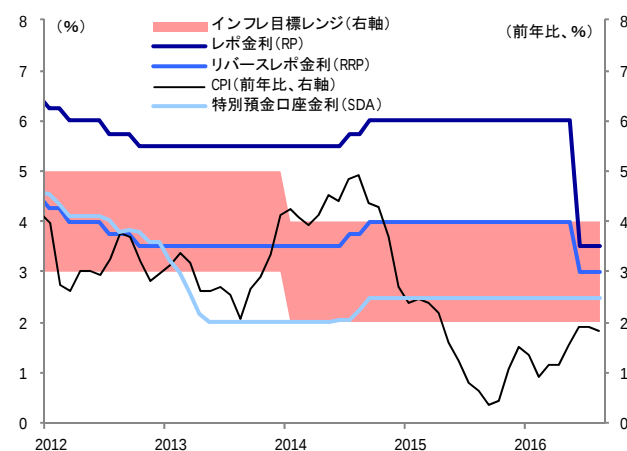
22日（木）に開催されるフィリピン中銀（BSP）の金融政策決定会合では政策金利の現状維持を予想する。前回会合（8月11日）では、政策金利であるリバースレポ（RRP）金利を3.00%、金利コリドーの上限である翌日物貸出（RP）金利を3.50%、下限である短期特別預金口座（SDA）金利を2.50%にそれぞれ据え置いた。コリドーは1.00%ポイントに維持された。声明文では、世界経済の成長鈍化を見込む一方、フィリピン経済は堅調な個人消費と投資を背景に力強さを保つと述べている。インフレについては、長期的にインフレ目標（+2～4%）内に収まるとの見方を維持した。なお、BSPは2016年の物価見通しを+2.0%から+1.8%、2017年の見通しを+3.1%から+2.9%に下方修正している。前回会合後、8月17日に発表された4～6月期GDPは前年比+7.0%と市場予想を上回る結果となり、8月フィリピン消費者物価指数（CPI）は前年比+1.8%とBSPのインフレ目標を下回った。堅調なフィリピン経済と低水準で推移し続けるインフレ率を背景に今回の会合では、政策金利の現状維持を予想する。

インドネシア:金融政策決定会合プレビュー

インフレ率やIDR相場の安定を背景
に利下げ実施か

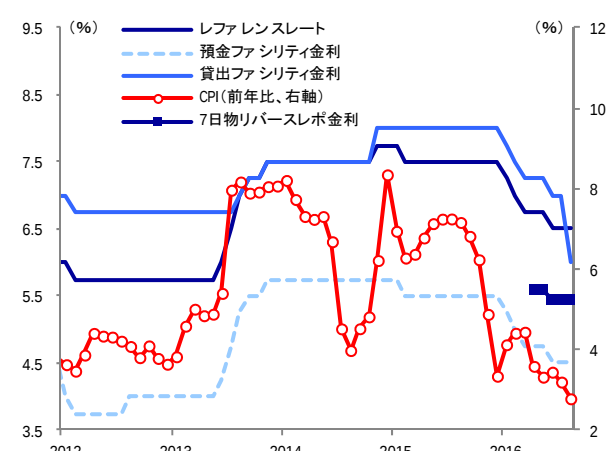
22日（木）に開催されるインドネシア中銀（BI）の金融政策決定会合では、政策金利が25bp引き下げられて5.00%に設定されると予想する。また、市場の下限金利となる預金ファシリティ金利が4.25%に、上限金利の貸出ファシリティ金利も5.75%にそれぞれ25bp引き下げられ、上限金利と下限金利の差であるコリドーは1.50%で維持される見込みだ。前回8月19日の会合では、インドネシア経済の安定や今後も底堅い成長が予想されることを理由に、新たな政策金利として適用された7日物リバースレポレートが5.25%に据え置かれた。また、声明文では先行きの金融政策に関して、経

図表3: フィリピン 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料)CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表4: インドネシア 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料)CEIC、ブルームバーグ、みずほ銀行

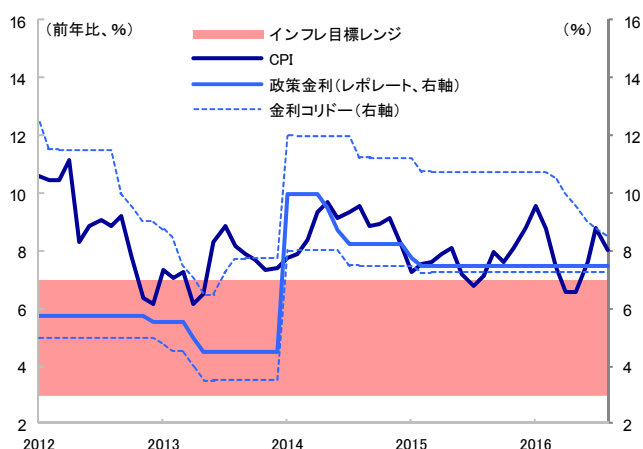
済成長を促すために緩和スタンスを維持するとの見方が示された。アグス BI 総裁は 9 日に「データが支持するならば、9 月か 10 月の会合で金融緩和を行う」との旨の発言をしている。前回国会後に発表された経済指標では、8 月 CPI が前年比+2.79%と BI 目標（+3~5%）を下回り、インフレ率は低下が続いている。また、8 月消費者信頼感指数は 4 か月ぶりに低下しており、景気にはやや弱い動きが見られる。さらに、IDR 相場は今年 7 月以降に 13000 から 13300 のレンジで安定しており、BI が今回で利下げに踏み切る可能性は高いだろう。

トルコ:金融政策決定会合プレビュー

CPI 減速を背景に金利コリドー上限を引き下げか

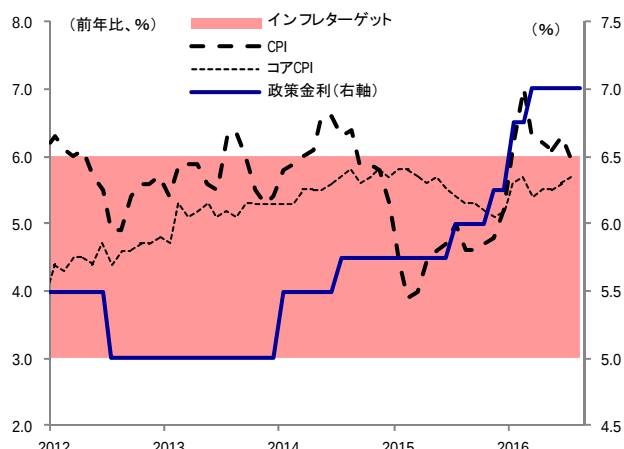
22 日（木）に開催されるトルコ中銀（CBRT）金融政策決定会合では、政策金利であるレポレートは 7.50%で据え置かれるも、金利コリドーの上限であり、市場金利が連動する翌日物貸出金利が 25bp 引き下げられ、8.25%になると予想する。前国会合（8 月 23 日）では、レポレートとコリドー下限である翌日物借入金利は 7.25%に据え置かれる一方、翌日物貸出金利が 25bp 引き下げられ 8.50%となった。そのため、コリドーは 1.50%ポイントから 1.25%ポイントに縮小した。声明文では、世界的なリスク選好の回復や、預金準備率の引き下げ措置により、7 月中旬の国内要因（クーデター未遂）の悪影響は概ね解消したとされた。また、インフレ率についても緩やかに低下するとの楽観的な見方を維持している。前国会合後の 5 日に発表された 8 月トルコ CPI は前年比+8.1%と 7 月（同+8.8%）から減速したものの、依然として CBRT のインフレ目標（+3~7%）を上回っている。しかし、景気下支えを図りたい CBRT は 8 月の CPI 減速を理由として金利コリドー上限を引き下げると予想する。

図表 5: トルコ 政策金利と消費者物価指数 (CPI)



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 6: 南アフリカ 政策金利と消費者物価指数 (CPI)



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

南アフリカ:金融政策決定会合プレビュー

インフレ上昇リスクを理由に利上げサイクルが再開か

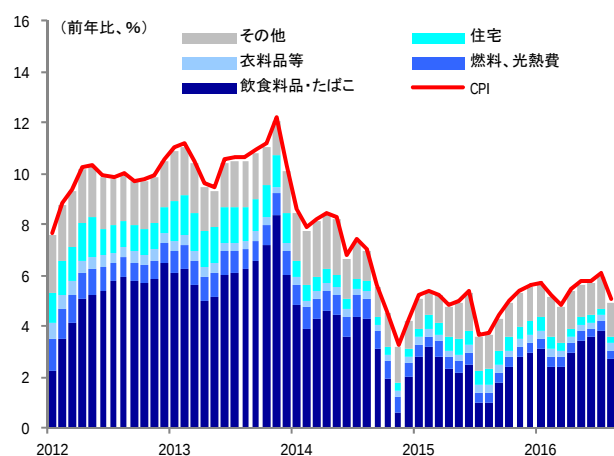
22 日（木）に開催される南アフリカ準備銀行（SARB）の金融政策決定会合では、政策金利が 25bp 引き上げられて 7.25%に設定されると予想する。前回会合（7 月 21 日）では、国内経済の弱含みや、それを背景にしたインフレ率の落ち着きを理由に「利上げを遅らせる余地がある」とし、政策金利の据え置きが決定された。もっとも、声明文ではインフレ率について、8 月にかけては ZAR の上昇や原油価格の停滞を背景に安定が見込まれるが、その後に関しては上振れリスクがあるとされている。会合後に発表された経済指標では、4～6 月期 GDP が前期比年率+3.3%とマイナス成長を脱し、市場予想（同+2.6%）を大幅に上回るなど景気回復の動きが見られる。一方、7 月 CPI は前年比+6.0%と依然として SARB の目標（+3～6%）の上限で推移している。会合前日に発表される 8 月 CPI が前月から大幅に減速するようであれば、再び SARB が引き締めを遅らせる芽はある。但し、SARB が金融政策の運営において重視する先行きのインフレ率に、目標レンジ内に収まる兆しが見られないため、我々は今回で利上げに踏み切ると予想する。

インド:CPI は 5 か月ぶりの低い伸び率

食品価格を中心に CPI は減速し、RBI の利下げをサポート

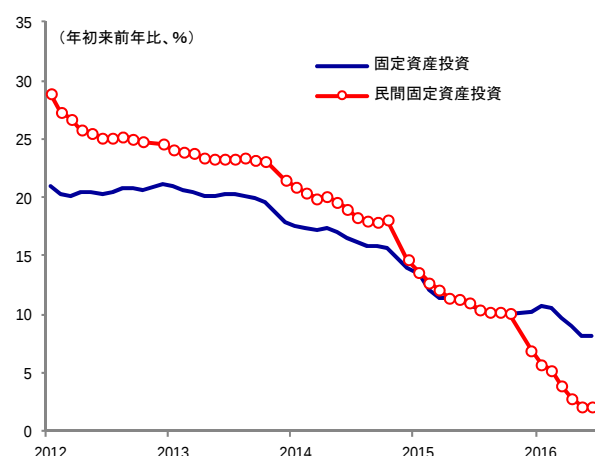
12 日に発表されたインド 8 月 CPI は前年比+5.05%と 7 月（同+6.07%）から減速し、今年 3 月以来の低い伸び率となった。内訳を見ると、衣類やサービスなど多くの項目で伸び率が前月から横這いだった一方、穀類や野菜を中心に飲食料品・タバコが同+5.91%（7 月：同+8.35%）と大幅に減速したことがインフレ率の低下に寄与している。6～8 月にかけてのモンスーン期（雨期）では 7 月に多くの州で例年を上回る雨量が確認されており、十分な降水量が農業生産増加に寄与し、8 月の食品価格低下に繋がったと考

図表 7: インド 消費者物価指数(CPI)



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 8: 中国 固定資産投資と民間固定資産投資



(資料)ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

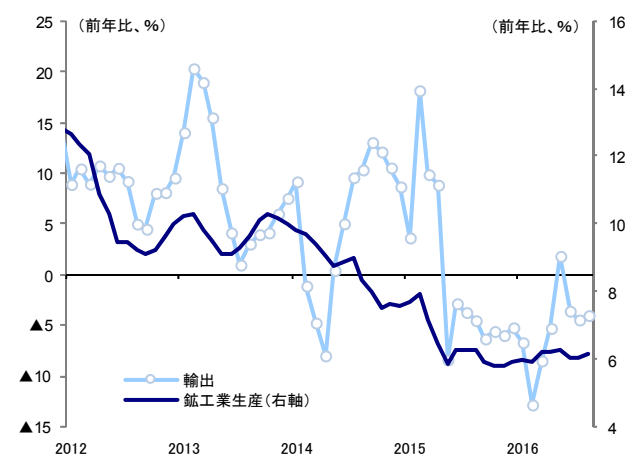
えられる。また、同時に発表された 7 月鉱工業生産指数は前年比▲2.4%（6 月：同+2.0%）と 3 か月ぶりの低下に転じた。特に製造業生産が同▲3.4%と大幅減に転じた影響が大きく、財別に見ると資本財生産が同▲29.4%と 9 か月連続で 2 桁前後の減少が続いている。背景には製造業における設備過剰と稼働率低迷があるほか、国内銀行での不良債権処理に伴う資金調達環境の悪化があると考えられる。景気に弱い動きが見られる中で、インフレ率はインド準備銀行（RBI）の 2017 年 3 月までの目標（+5%）近くで推移しており、次回の RBI 会合（10 月 4 日）にて利下げが実施される可能性が高まったと言える。

中国: 内需関連指標の結果は良好

小売売上高、鉱工業生産は加速し、
固定資産投資は持ち直し

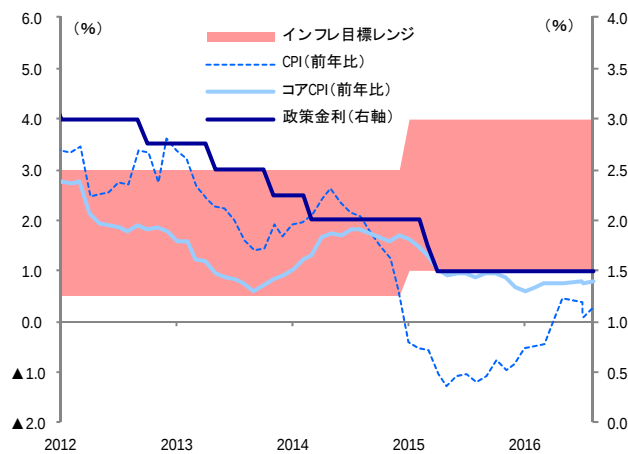
13 日に発表された一連の経済指標では、8 月鉱工業生産が前年比+6.3%と 7 月（同+6.0%）から伸び幅が拡大した。7 月の長江水域で発生した洪水被害からの復興に加え、8 日に発表された 8 月輸出が前年比▲2.8%（7 月：同▲4.4%）と 2 か月連続で改善するなど、外需の持ち直しが生産の回復に寄与した模様だ。また、8 月小売売上高も同+10.6%と 7 月（同+10.2%）から加速している。小型車を対象にした減税により、8 月自動車販売が同+26.5%と 2013 年 1 月以来の高い伸び率となったことが、小売売上高を押し上げた。今後については、自動車減税が年内に終了する予定であることから、駆け込み需要による自動車販売の増加が予想される。なお、8 月固定資産投資は、4 か月連続で伸び率が縮小し続けていたものの、民間投資や不動産投資の下げ止まりを受けて、年初来前年比+8.1%と 7 月（同+8.1%）から伸び率が横這いとなった。不動産投資の先行指標となる 8 月不動産販売面積は前年比+19.1%と 2 か月連続で加速しており、堅調な不動産投資が固定資産投資を下支える公算が大きくなっている。今回の経済指標は、中国経済安定の兆しが強まっていることを示唆する内容となった。

図表 9: 中国 鉱工業生産と輸出



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行
（注）鉱工業生産・輸出ともに 3 か月移動平均

図表 10: タイ 政策金利と消費者物価指数(CPI)



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

タイ:金融政策決定会合プレビュー

緩やかな景気回復を背景に金融政策は現状維持

14日に開催された金融政策決定会合にて、タイ中銀（BOT）は市場予想通り 11 会合連続で政策金利を 1.50%に据え置いた。声明文は前回会合（8月3日）から大きな変更はなく、政府支出と観光業をけん引役として緩やかな回復基調にあるとの景気認識を維持した。なお、4～6 月期 GDP については、一時的な要因と財政刺激策を背景とした力強い家計最終消費支出により予想を上回る結果になったと述べている。タイ経済は今後も回復を続けるものの、世界経済の脆弱な回復や、海外の政治情勢などの下振れリスクに直面しているとしたほか、前回会合に引き続き、THB 高を警戒する文言が維持された。今後の金融政策に関しては、タイ経済は引き続き先行き不透明感が高いため、緩和余地を残しておく必要があるとしている。なお、BOT は 2016 年の GDP 見通しを+3.1%から+3.2%に上方修正し、2016 年インフレ率は+0.6%から+0.3%に、2017 年は+2.2%から+2.0%に下方修正した。BOT はタイ経済の緩やかな回復が続くとの見方を維持しており、経済指標などに大幅な悪化が見られない限り、現状の金融政策を維持するだろう。

エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
9月9日 (金)	フィリピン	6月 輸出(前年比)	-10.0%	-13.0%	-11.4%	--
9日 (金)	中国	8月 消費者物価指数(前年比)	1.7%	1.3%	1.8%	--
9日 (金)	マレーシア	7月 鉱工業生産(前年比)	4.5%	4.1%	5.3%	--
9日 (金)	韓国	9月 韓国銀行7日間レポレート	1.25%	1.25%	1.25%	--
12日 (月)	インド	8月 消費者物価指数(前年比)	5.3%	5.1%	6.1%	--
12日 (月)	インド	7月 鉱工業生産(前年比)	1.4%	-2.4%	2.1%	2.0%
13日 (火)	中国	8月 鉱工業生産(前年比)	6.2%	6.3%	6.0%	--
13日 (火)	中国	8月 小売売上高(前年比)	10.2%	10.6%	10.2%	--
13日 (火)	中国	8月 固定資産投資	7.9%	8.1%	8.1%	--
14日 (水)	タイ	タイ中央銀行指標金利	1.50%	1.50%	1.50%	--
14日 (水)	中国	7月 新規貸出(人民元)	750.0b	948.7b	463.6b	--
14~16日	インド	8月 貿易収支	-7000.0m	--	-7761.4m	--
15日 (木)	シンガポール	7月 小売売上高(除自動車/前年比)	-2.8%	-3.1%	-3.0%	-2.5%
15日 (木)	インドネシア	8月 貿易収支	\$500m	\$294m	\$598m	\$514m
15日 (木)	フィリピン	7月 海外送金(前年比)	4.8%	-5.4%	4.8%	--
16日 (金)	シンガポール	8月 非石油地場輸出(前年比)	-3.3%	--	-10.6%	--
19日 (月)	フィリピン	8月 総合国際収支	--	--	\$215m	--
21日 (水)	マレーシア	8月 消費者物価指数(前年比)	1.3%	--	1.1%	--
22日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金利	3.00%	--	3.00%	--
22日 (木)	インドネシア	インドネシア銀行7日物リバースレポレート	5.00%	--	5.25%	--
23日 (金)	シンガポール	8月 消費者物価指数(前年比)	--	--	-0.7%	--
中東欧・アフリカ						
9月9日 (金)	トルコ	7月 経常収支	-2.70b	-2.60b	-4.94b	-4.97b
9日 (金)	トルコ	2Q GDP(前年比)	3.7%	3.1%	4.8%	4.7%
9日 (金)	ロシア	7月 貿易収支	7.2b	6.5b	8.1b	--
9日 (金)	ロシア	2Q GDP(前年比)	-0.6%	-0.6%	-0.6%	--
14日 (水)	南アフリカ	7月 小売売上高(実質値、前年比)	1.9%	0.8%	1.7%	1.4%
15日 (木)	ロシア	6月 鉱工業生産(前年比)	0.6%	0.7%	-0.3%	--
16日 (金)	ロシア	主要金利	10.00%	--	10.50%	--
19日 (月)	ロシア	8月 実質小売売上高(前年比)	-5.0%	--	-5.0%	--
21日 (水)	南アフリカ	8月 消費者物価指数(前年比)	6.0%	--	6.0%	--
22日 (木)	トルコ	8月 消費者信頼感指数	--	--	74.4	--
22日 (木)	トルコ	指標レポレート	--	--	7.50%	--
22日 (木)	トルコ	翌日物貸出金利	--	--	8.50%	--
22日 (木)	トルコ	翌日物借入金利	--	--	7.25%	--
22日 (木)	南アフリカ	SARB政策金利発表	7.00%	--	7.00%	--
ラテンアメリカ						
9月9日 (金)	ブラジル	8月 IBGEインフレ率IPCA(前年比)	9.0%	9.0%	8.7%	--
9日 (金)	メキシコ	7月 鉱工業生産(前年比)	-0.2%	-1.0%	0.6%	0.5%
13日 (火)	ブラジル	7月 広義小売売上高(前月比)	0.8%	-0.5%	-0.2%	--
16日 (金)	ブラジル	7月 IBGEサービス部門売上高 前年比	-4.5%	--	-3.4%	--
16~20日	ブラジル	7月 経済活動(前年比)	-4.3%	--	-3.1%	--
22日 (木)	ブラジル	9月 IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	--	--	9.0%	--
23日 (金)	メキシコ	7月 小売売上高(前月比)	--	--	1.0%	--
23日 (金)	メキシコ	7月 小売売上高(前年比)	--	--	9.4%	--

(注)2016年9月16日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
(資料)ブルームバーグ

エマージング通貨相場見通し

		2016年 1～8月（実績）	SPOT	2016年 9月	12月	2017年 3月	6月	9月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.4528 ～ 6.7047	6.6747	6.70	6.70	6.69	6.67	6.65
香港ドル	(HKD)	7.7488 ～ 7.8295	7.7586	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	66.071 ～ 68.789	67.025	68.5	67.5	65.8	64.5	64.0
インドネシアルピア	(IDR)	12984 ～ 14002	13175	13400	13200	12800	12500	12650
韓国ウォン	(KRW)	1089.72 ～ 1245.13	1127.22	1130	1120	1110	1100	1090
マレーシアリンギ	(MYR)	3.8442 ～ 4.4415	4.1375	4.12	4.10	3.90	3.85	3.88
フィリピンペソ	(PHP)	45.860 ～ 48.069	47.740	47.0	46.4	46.2	45.3	44.9
シンガポールドル	(SGD)	1.3313 ～ 1.4444	1.3619	1.37	1.36	1.33	1.32	1.33
台湾ドル	(TWD)	31.006 ～ 33.791	31.807	32.20	31.90	31.60	31.30	31.00
タイバーツ	(THB)	34.49 ～ 36.42	34.90	34.8	35.0	34.4	34.0	33.7
ベトナムドン	(VND)	22059 ～ 22535	22308	22350	22380	22200	22150	22250
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	62.6107 ～ 85.9573	64.4429	66.00	64.50	63.00	63.00	60.00
南アフリカランド	(ZAR)	13.2008 ～ 17.9169	14.2185	15.50	16.50	17.00	17.00	16.50
トルコリラ	(TRY)	2.7901 ～ 3.0973	2.9677	3.10	3.30	3.40	3.50	3.50
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	3.1141 ～ 4.1720	3.3026	3.26	3.35	3.41	3.44	3.47
メキシコペソ	(MXN)	17.0507 ～ 19.5187	19.3474	18.80	18.50	17.90	17.50	17.10
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	14.964 ～ 18.563	15.346	15.37	14.93	14.65	14.54	14.44
香港ドル	(HKD)	12.835 ～ 15.615	13.129	13.27	12.89	12.63	12.50	12.37
インドルピー	(INR)	1.468 ～ 1.823	1.520	1.50	1.48	1.49	1.50	1.50
インドネシアルピア	(100IDR)	0.740 ～ 0.896	0.773	0.769	0.758	0.766	0.776	0.759
韓国ウォン	(100KRW)	8.488 ～ 10.267	9.051	9.12	8.93	8.83	8.82	8.81
マレーシアリンギ	(MYR)	24.246 ～ 29.357	24.696	25.00	24.39	25.13	25.19	24.74
フィリピンペソ	(PHP)	2.127 ～ 2.570	2.145	2.19	2.16	2.12	2.14	2.14
シンガポールドル	(SGD)	72.61 ～ 85.54	74.79	75.18	73.53	73.68	73.48	72.18
台湾ドル	(TWD)	3.077 ～ 3.671	3.202	3.20	3.13	3.10	3.10	3.10
タイバーツ	(THB)	2.814 ～ 3.412	2.918	2.96	2.86	2.85	2.85	2.85
ベトナムドン	(100VND)	0.4466 ～ 0.5482	0.4566	0.46	0.45	0.44	0.44	0.43
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.359 ～ 1.718	1.576	1.56	1.55	1.56	1.54	1.60
南アフリカランド	(ZAR)	6.397 ～ 7.805	7.162	6.65	6.06	5.76	5.71	5.82
トルコリラ	(TRY)	32.990 ～ 41.265	34.310	33.23	30.30	28.82	27.71	27.43
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	27.727 ～ 32.973	30.842	31.60	29.85	28.74	28.20	27.67
メキシコペソ	(MXN)	5.197 ～ 7.018	5.264	5.48	5.41	5.47	5.54	5.61

（注）1. 実績の欄は8月31日まで。SPOTは9月16日の8時00分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。

（資料）みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。